

嬉野温泉 温泉熱力スケード利用によるエネルギーサービス事業

○応募事業：温泉熱等利活用【設備等導入】

○事業実施地：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿丙2400

○代表事業者：京葉ガスエナジーソリューション株式会社

○共同実施者：一

○地域課題

嬉野温泉は開業約1300年の歴史を持ち、古くからの観光地・歓楽地として発展してきたが、近年は都市部にも温泉施設が増加し、地方の宿泊温泉施設はその老朽化とともに、投資も減少している。本対象地は廃業となった温泉宿の跡地でもあり、新たな地域再生・活性化が重要な課題である。

○本事業を活用した地域課題の解決方策

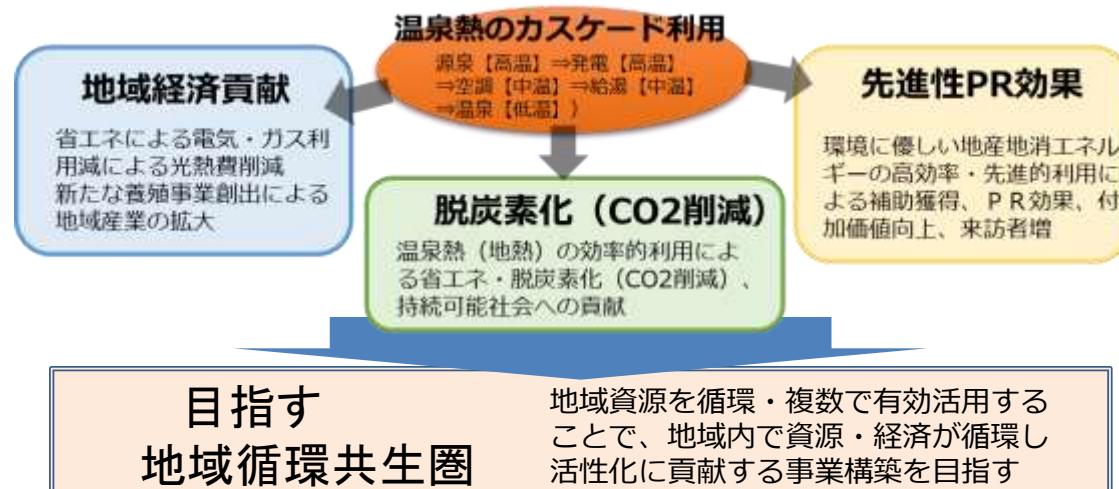
本対象施設は、2022年度に開業する新幹線新駅「嬉野温泉駅」に合わせ、地域のシンボルとして建設される温泉宿泊施設を対象としている。本施設で、地域資源である温泉熱を温泉だけでなく、カスケード利用による新たな収入源と新事業を創生し、地域の活性化や魅力発信に向けて相乗効果を図る。

○目指す地域循環共生圏のイメージ

地域の地産地消エネルギーである温泉熱の持つエネルギーを有効利用し、電力・ガスの利用を削減することで施設の光熱費削減という経済効果、CO2削減・低炭素化という社会的効果に貢献する。また、温泉熱を利用した新たな甲殻類養殖事業を展開し、事業創出による地域経済効果の拡大に寄与する。

イニシャルコスト増に対しては、先進的なエネルギー利用推進と国の低炭素化に貢献することで、補助金獲得が可能なほか、先進的な設備導入によるPR効果や付加価値を向上し、視察・見学者の来訪なども期待できる。

地域資源を活用し、温泉施設、新たな産業創出が重なりあいながら、経済が循環する「地域循環共生圏」を目指す。



○事業概要

本事業は、佐賀県嬉野温泉に建設される温泉宿泊施設において、京葉ガスエナジーソリューション(株)がエネルギーサービス事業として、施設内のバイナリー発電を始めとした温泉熱力スケード利用システムを建設・所有・運用し、宿泊施設側から毎月のサービス料金により費用を回収する事業である。

また、京葉ガスエナジーソリューション(株)が、宿泊施設の温泉熱を隣接する地域でのエビ養殖に活用する新規事業を創出し、一度途絶えた温泉熱の有効利用を図る。（事業期間：令和4年度・5年度の2か年事業）

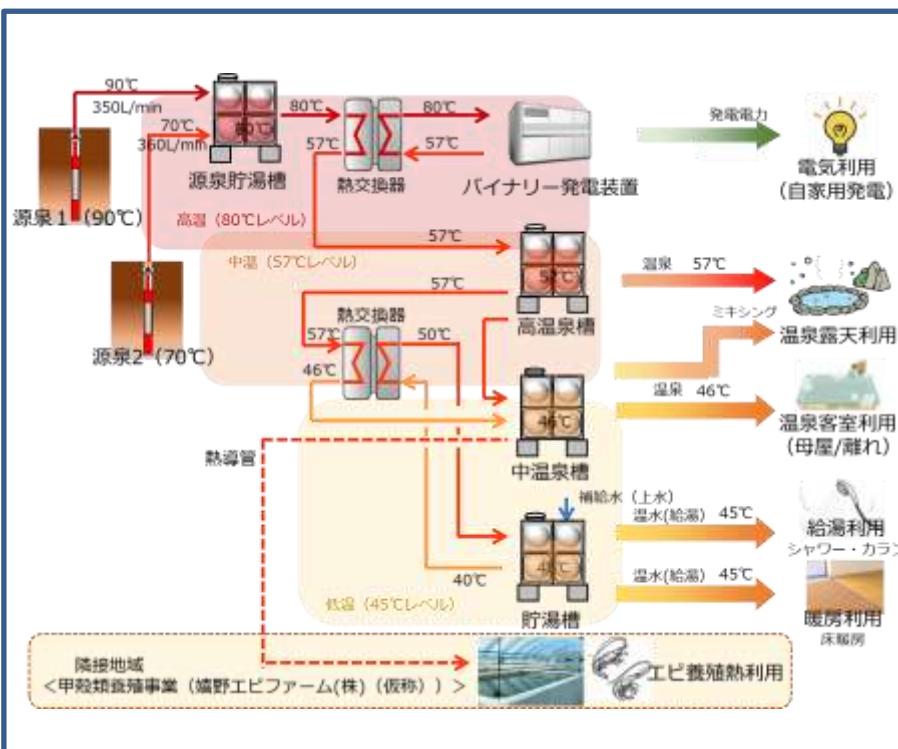
<宿泊施設における温泉熱力スケード利用サービス事業>

⇒宿泊施設内の温泉熱によるバイナリー発電、温泉露天利用、温泉客室利用、給湯利用、床暖房利用に至るカスケード熱利用システムの一次側（熱源）を所有し、宿泊施設に温泉と熱と発電電力を供給するサービスを事業化する。

<甲殻類養殖事業（エビ養殖事業）>

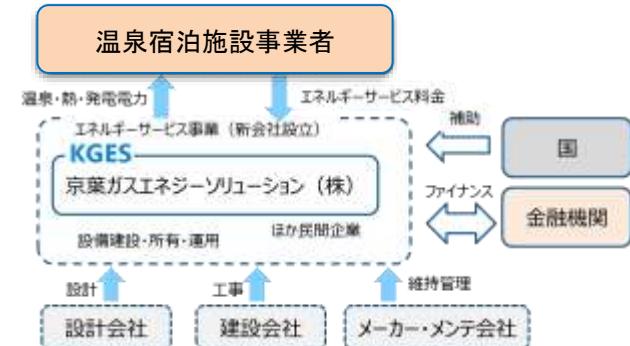
⇒隣接する地域で、温泉熱を利用したエビの陸上養殖事業を展開、地域の新たな産業を創出する。

○導入予定の設備等のイメージ



○事業の実施体制

<宿泊施設における温泉熱力スケード利用サービス事業>



<甲殻類養殖事業（エビ養殖事業）>

